

ひなの家押野通信第7号

昔ながらのすっぱ〜い梅干しづくり 利用者の知恵生かす

梅を点検する



梅が市場に出回る時期。ひなの家押野では早速、利用者やスタッフらが梅干しづくりに励みました。和歌山県産の南高梅5kgを購入。ホーム利用者で梅干しづくり50年余の金岡ちい子さんが指導にあたりました。梅が腐っていたり、傷づいていないか一つ一つ確認しながら、食塩をまぶして容器に入れました。

梅にシソを交ぜる



数日後、実から水気が出た梅を容器から取り出し、赤く染まるシソの葉と交ぜた後、改めて容器に漬け直しました。夏に3、4日、天日干しします。秋には食べるができます。金岡さんは「5年前まで毎年、郷里の珠洲で梅干しをつくっていました。夏、天気のいい日に干すと、おいしい梅干しができますよ」と話していました。



ひなの家 押野
野々市市押野1-31
電話076(287)5810

四季を撮る 番外編 丹精込めたサボテンに大輪



通所利用者の山田澄夫さんの自宅で7、8年前から育てていたサボテン2本のうちの1本(高さ約35cm)に直径13cmのピンクの大輪が咲きました。つぼみも数個付けており、まだまだ花が楽しめます。

山田さんは「丹精込めて育てよかった」と表情もほころんでいます。

相手に好感を与えるマナー研修始まる



マナーについて学ぶスタッフ

スタッフのマナーの向上を図る研修がひなの家押野で始まりました。浅井康紀社員教育推進室長が「マナーは人間性や常識度の判断基準であり、その後の信頼度、仕事の満足度や施設への評価の基準になる」と意義を述べました。

マナーの大切さについて「たった一人のマナーのない言葉や動作が施設のイメージをゼロにしてしまうし、逆に一人の対応がよければイメージアップにつながる」と強調しました。

マナーの基本は「相手」中心の考え方、関わり方だとし、「相手を尊重する。相手に好感を与える。相手に迷惑をかけることがポイント」と説明。尊敬語や謙譲語にも留意し、二重敬語を使わないことなどをアドバイスしました。マナー研修の2回目は9月に実施します。



百万石踊りも楽しむ

お点前を披露



百万石まつりにちなんだ「百万石茶会」が6月7日、ひなの家押野でありました。茶道裏千家の流派をたしなむ利用者の一人が、利用者やスタッフ一人一人にお点前を披露しました。

この後、みんなで百万石踊りを動画を見ながら歌い踊り、楽しいひと時をすごしました。

